

被災者を支える方言

魏 ふく子

(担当者：魏・趙倩婧・浦藤駿気・菊地恵太・黄川川)

1 はじめに

1.1 目的

本稿は、この度の震災に伴い、被災の場で方言がいかなる機能を果たしているか（意識的に使われているか）という、方言機能論の立場から震災時における方言を捉えることを試みたものである。

本報告では、以下のように考察課題・調査方法を定め、まず課題 1 として、被災地の方言が被災地あるいはそれ以外の地域においてどのような意図で用いられているかを、新聞記事等における方言の利用例から見ていく（2 節）。次に課題 2 として、今回の被災地やその周辺地域の方言が、その地域の住民や他地域の人々からどのように捉えられてきたかという方言意識に関する背景を、先行研究における調査の結果から概観する。そして、2 節で取り上げる復興スローガンにおける方言の利用例に対する被災者・支援者の意識調査を行う（3 節）。

- 課題 1** 被災地あるいはそれ以外の地域で被災地の方言がどのような意図で用いられているか。
…震災以降の 新聞記事、スローガン、看板など
- 課題 2** 課題 1 のような方言の使用に対して被災者・支援者がどのような感情を抱いているか。
…気仙沼で調査を行う

1.2 先行研究

小林（2007）によれば方言機能論とは、方言が社会の中でいかなる役割を果たすかを追求する研究分野で、属性論的な研究が多くなされる社会方言学の中、言語の運用面に目を向けた分野である。

かつて方言は、生活の中で用いられる言語として唯一の存在であった。20 世紀に入って、共通語を操るようになった人々は、共通語・方言を状況に応じて選んで使用するようになった。共通語が普及している中、あえて方言が使用される背景として、現代人が方言に対してこれまでとは違う役割を期待している可能性が考えられる。すなわち、方言の機能が、これまで担ってきた思考内容の伝達から、コミュニケーションを円滑で暖かみのあるものにするために用いるといった、以下のような心理的なメッセージの提示へと重心を移してきていることが指摘されている。

- ① 相手の確認：同一地域社会に帰属する親しい仲間同士であることの確認
→ 一体化を図る効果（一種の「集団語」としての性格）
- ② 発話態度の表明：その場の会話を気取らないくだけたものにしたいという意思表示
→ 会話の雰囲気作り（打ち解けた会話場面の形成）

2 被災地あるいはそれ以外の地域で被災地の方言がどのような意図で用いられているか

2.1 準備調査

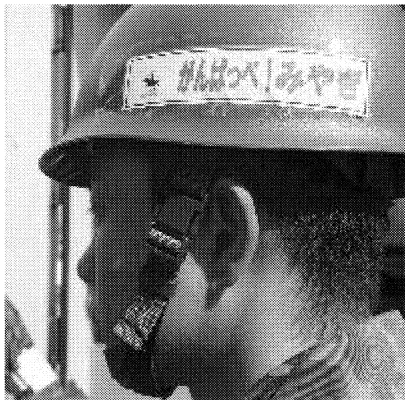
東日本大震災後において、方言はどのような効果を発揮することを意図して使用されてきたのか。私たちは新聞というメディアからその事例を収集した。方言使用の目的の違いから、以下に4つの記事を紹介する。

2.1.1 記事①

がんばっぺ！お国なまりで自衛隊員、被災地応援（『読売新聞』平成23年3月29日）

東日本巨大地震の救援活動に取り組む自衛隊員らが、被災地の方言などを使った応援メッセージをステッカーにし、隊員のヘルメットやヘリコプターの胴体に貼っている。被災者の間では「親近感が湧いて勇気がもらえる」と好評だ。

陸海空3自衛隊の支援部隊を指揮する統合任務部隊司令部（仙台市）によると、地震発生直後、宮城県に災害派遣された陸上自衛隊第10師団（名古屋市）が、「がんばろう！みやぎ」と書いたステッカーを独自に作ったのが始まり。隊員の士気高揚や活動のPRにと、司令部が他の部隊にも導入を呼びかけ、各活動場所の方言が盛り込まれるようになった。自衛隊が災害派遣活動でこうしたステッカーを作るのは初めてという。



応援ステッカーを貼って活動する自衛隊員たち

●ポイント

- ・救援活動に取り組む自衛隊員らが、被災地方言を使った応援メッセージをステッカーにし、ヘルメットやヘリコプターに貼った。
- ・被災者の間では「親近感が湧いて勇気がもらえる」と好評である。
- ・最初は自衛隊員の士気向上や活動PRのために「がんばろう」と書いていたが、徐々に方言が盛り込まれるようになった。

●考察

被災地の方々にとってより強いメッセージにするために方言を使い始めたのだと推測される。また、ここでの方言の使用は被災者を励ますだけではなく、救援活動を行っている自衛隊員の士気を高揚させる機能も持っている。これは方言を通じて両者の間に一体感を生み出した事例と言える。

→方言使用目的：親近感・一体感の創出、アピール効果

2.1.2 記事②

東日本大震災：岩手に自転車 50 台 岐阜市が高校生支援

『毎日新聞』平成 23 年 5 月 13 日朝刊)

東日本大震災で津波被害を受けた岩手県沿岸部の高校生の通学を支援しようと、岐阜市緊急支援本部は 12 日、自転車 50 台をトラック 2 台に積み込み現地へ出発した。同市が自転車を被災地へ贈るのは初めて。

市職員の家族が寄付した 35 台、市都市建設部所有の 13 台、市民寄贈の 2 台を贈った。すべて防犯登録を抹消した中古品。東北の方言で「がんばっぺし岩手」と書かれたステッカーを貼り、県立釜石商工高校へ直接送り届ける。パンク修理キット 50 セットも提供する。

武政功副市長が 4 月 19 日、中核市長会の見舞金 2700 万円を盛岡市へ持参した際、自転車への要望が強かったという。

●ポイント

- ・岩手県で津波被害を受けた高校生の通学を支援するため、岐阜県が自転車を 50 台贈った。
- ・その 50 台の自転車に、東北の方言で「がんばっぺし岩手」と書かれたステッカーが貼られた。

●考察

自転車を贈ること以外にも、自分たちの応援の気持ちを強く伝えたいと考え、方言を使ってメッセージを書いたのだと思われる。これは、被災者に親近感を持っていただきたいと支援者が考えたからだろう。→方言使用目的：親近感・一体感の創出

2.1.3 記事③

東日本大震災：被災地の特産物即売で支援 川崎の商店街「物産市けえ」

『毎日新聞』平成 23 年 5 月 23 日朝刊)

川崎市中原区の「モトスミ・ブレーメン通り商店街」で 22 日、東日本大震災の被災地支援「物産市けえ」があった。「けえ」は東北方言の「食べて」。東北や茨城県の野菜や特産物の即売に多くの人でにぎわった。

同商店街は 4 年前から JA 全農福島と交流し、度々物産展を開催。原発事故による風評被害に遭う福島県などの農業を支援しようと、同商店街振興組合青年部を中心に企画した。テーマは「被災地の農業を動かす」。組合の役員報酬四半期分（30 万円）などを元手に野菜や特産品を仕入れ、売り上げを寄付。被災地に現金が 2 度落ち、農産物も流通する仕組みになっている。

当初は役員報酬の寄付のみを考えていたが、組合内から「金だけではだめ」との声が上がり、カネとモノが動く仕組みを検討。同組合の伊藤博理事長（68）は「商人として考え抜いた策です」と胸を張った。会場を訪れた同県の松本友作副知事は「福島の農産物は安全。買って食べてもらうのが一番の支援」と感謝した。

買い物を楽しみながら寄付ができ、横浜市港北区の主婦、真壁百合子さん（32）は「アスパラガスが甘くてみずみずしくておいしかった。買い物で被災地に貢献できてうれしい」と話していた。

同商店街は6、11月にも物産市を予定。息の長い支援を目指す。

●ポイント

- ・神奈川県における商店街では、22日に東日本大震災の被災地支援のため、東北や茨城の農産物を売る即売会が開かれた。
- ・即売会を「物産市けえ」と名づけ、「けえ」は東北方言の「食べて」という意味。

●考察

こちらの方言使用については、今までの親近感・一体感の創出に加え、別の方言使用目的がある。他の記事においては、方言は被災者へ支援者の思いを届けるために書かれたものと思われる。しかし、この記事において方言は、他の地域の人々が標語や名前を見て、東日本大震災を想起する事を狙ったものだと考えられる。このような使い方は被災者への直接的な効果を期待したものではないが、被災地支援のイベントをアピールするという意味で、間接的な支援の機能を持っていると言える。→方言使用目的：アピール効果

2.1.4 記事④

「いま伝えたい」→次頁参照（下線部が方言と思われる）

（『朝日新聞』東京版 朝刊 36面）

上：平成23年5月9日 右下：平成23年5月11日 左下：平成23年5月12日）

●ポイント

- ・全国に避難している方も含めた、被災者の方々の声を掲載している朝日新聞のページ。
- ・「おら」、「ちやつこい」、「～っちゃ」といった方言が見られる。

●考察

これらの記事からは、読者が親近感を持つ事ができるというだけでなく、被災者の声をよりダイレクトに届けたいという編集側の思惑が見て取れるのではないだろうか。被災者の方言に対する他地域の人々の意識が最も表れているものだと考えられる。→方言使用目的：親近感の創出、臨場感やメッセージ性の付与

この体育館で2カ月。早いねえ

いま伝えたい

宮城



杉山良子さん

気仙沼市南郷、杉山良子さん(61)この体育館で、みんながカーブにぐるぐるまわってから2カ月、早いねえ。自費で、保護師さんは本当におおげさな。でも、いっしょでいっしょな不安なの。最近、夜中に目を覚ます。これからどうしたらいいのかわからなくて、寂しい。もし仮設住宅に入れても、山の土は重たい。物は置く物に重たい。夜間は山に響いて、怖くて寝られない。あんなに生まれた気仙に、いたいねえ。

〓 岡市の気仙沼高校体育館



後藤三美緒さん

南三陸町南郷、後藤三美緒さん(61)仮設住宅に住めるようになったが、水道はまだ出ない。食料などの物資も少ししか入らなから、生活が不便。いっしょに、野菜なども育てて、何とか生活できるようにしたい。20年くらい

福島



高野美香さん

南相馬市小高区、目和田中2年高野美香さん(17)「小高中から転入しました。今の避難所には他に中学生がいなくて、転入先の目和田中では1人だけ。みんなが話しかけてくれて、友達もでき、学校生活にも慣れました。でも、「おた中」の方がいいなあ、って思う。いっしょに話しかけて言われたら、分らないけど、避難所はトイレに入りました。毎日講習があって大変。未経験だけど、一球一球大事に練習して試合に出られるようにしたい」

石巻市美谷、水野和一さん(61)「自治会の行政役員です。地域は400人弱の住民のうちの半分くらいが不明と死んでいます。6月の目和田に合同作業をしながら、みんなが集まれる場所を探しています。作業で小さな田んぼをわけていただけると、農機具もみな流されて、避難所まで田植えをしているのを見る。何も言えない気持ちになるねえ」

〓 岡市の河北総合センター

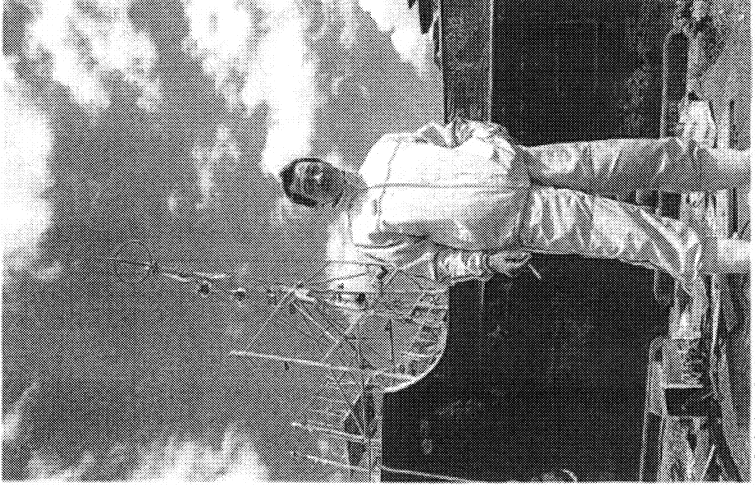
南三陸町志津川、大工橋原盛司さん(64)「自分は会長し、志津川病院に入院していたおとくろは行方不明。病院からはまだ連絡もない。今は弟の家にいて、仮設住宅の建設の仕事だ、寺の修理だのしている。体調を崩した時、長崎から来た先生に世話になった。忘れられない。金田のみなさんにありがたうって伝えたい。生徒たち、8年後だから、必ずおれはつとめたい。おとくろ、必ず帰るよ」

〓 同町志津川の弟の作業場

船見つけた感激したよ

大船渡市米崎町、船長山中東一朗さん(61)「昨年未だの津波で修理し、3月10日に海におろしたばかりの船が津波で気仙沼漁港に流された。おらの船だけ見つかんねえから頭痛かったけど、4日ほど津波で

見つけた。感激した。船はなれば生活できなくなる。船にはおら、エントリもたためた。ただ、高知で修理をした。6月10日から帰る。津波がケ・マス船に命を奪った。それが無理でもか、かからなれば、おらに出来る。〓 宮城気仙沼市の気仙沼港



山中東一朗さん

2.1.5 そのほか震災における方言の意図的使用例（→次項にイメージ画像）

①NHK ラジオ番組「やるっちゃ！宮城」

宮城県在住、または宮城県にゆかりのあるミュージシャンやタレントをパーソナリティーに、今回の震災で被災されたみなさんへ生放送でエールを送る宮城県向けラジオ番組である。

被災地からいただいたリクエストやメッセージのほか、パーソナリティーそれぞれの震災体験談、また生演奏などを交えながら、宮城のみなさんといっしょに作る番組である。

<http://www.nhk.or.jp/sendai/top/yaruccha/>

②がんばっぺいわき

今回の東日本大震災の中で被災した街の一つ、福島県いわき市を支援するため、「がんばっぺいわき」というロゴを作成、販売する個人的活動である。

販売された商品は<プリントシール>、<プリントシール（small）>、<カッティングシートステッカー>三種類。いずれも 300 円+α お気持ちで販売されている。+α 分の全額と収益の一部をいわき市内の復興支援団体「がんばっぺいわき！ネットワーク（代表：Erico（蛭田江里子）」さんへ寄付することになっている。

<http://www.mizdesk.com/gbpi/>

③【楽天市場】カテゴリ：けっばれ！東北/チャリティグッズ

がんばっぺ宮城！復興支援応援ストラップ&キーホルダー：

ビート魂ショップ→Tシャツ型のキーホルダー・ストラップを 400 円で販売。

三月末までに、けっばれ！ストラップ&キーホルダー売上の収益分 16800 円を日本赤十字社を通じて義援金として送金。

<http://item.rakuten.co.jp/yakyu-da/10000790>

④東日本大震災被災地復興支援 がんばっぺしプロジェクト

被災者・支援者が交流できるサイト。

創作書家・高野こうじ氏の書き下ろしステッカーの販売（プロジェクト第一弾）→東日本大震災 がんばっぺし 被災地復興支援（店舗）

3 種各 500 円で、収益金は「がんばれ漁業」義援金として JF グループ東北地方太平洋沖地震漁業・漁村災害復興対策本部を通じて被災地へ届けますとのこと。

<http://ganbappeshi0311.com/>

2.1.6 新聞記事等から読み取れる方言の機能

今回収集した新聞記事からは、ポジティブな効果を期待した方言の使用例を多く見ることができた。新聞記事の内容だけでは、そうした方言使用が実際にはどのように人々に受け取られているかを広く知ることはできなかったが、新聞における方言使用を概観することで、被災地方言に対する人々の意識（ここでは新聞社の思惑など）を知る糸口を発見することができた。新聞社への調査（電話による質問など）を通じて、さらなる意識調査が望めると思われる。

①

NHKラジオ第1

毎週日曜日 午後8:05~9:55

震災に負けない!

やるっチャ! 宮城

「やるっチャ!宮城」

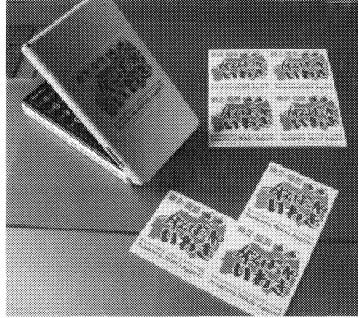
宮城県在住、または宮城県にゆかりのあるミュージシャンやタレントをパーソナリティーに、今回の震災で被災されたみなさんへ生放送でエールを送る宮城県向けラジオ番組です。被災地からいただいたリクエストやメッセージのほか、パーソナリティーそれぞれの震災体験談、また生演奏などを交えながら、宮城のみなさんといっしょに作る番組です。

ケータイサイトは
こちらから



②

くがんばっぺいわきプリントシール(Small)



①NHK ラジオ番組「やるっチャ!宮城」

②がんばっぺいわき

③【楽天市場】カテゴリ:

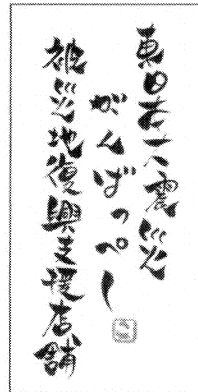
けっぱれ!東北/チャリティグッズ

④東日本大震災被災地復興支援

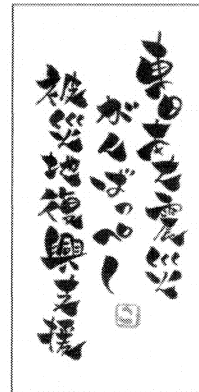
がんばっぺプロジェクト

③

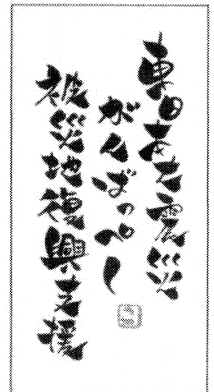
④ 東日本大震災被災地復興支援チャリティーステッカー



店舗様向け
ミラーコート紙シール
(マットPP加工)



ミラーコート紙シール
(マットPP加工)



和紙シール

各 500 円

東日本大震災被災地復興支援
がんばっぺプロジェクト

2.2 新聞記事について

2.2.1 新聞記事等から読み取れる方言の機能

準備調査の結果から、新聞記事における方言使用は使用意図によりタイプが分かれるのではないかと思われる。そこで、範囲を広げて全国紙と地域紙を対象に方言の使用例を収集し、傾向を探ることにした。調査は3月11日～6月30日の期間の記事について行った。調査対象にしたのは地域紙として河北新報、全国紙として朝日・毎日・読売新聞である。(産経・日経新聞についても調査したが、方言が記載された例は見られなかった。)

収集した記事を方言使用の目的の違いという観点から整理すると(別資料A)、①スローガンに方言を用いる例、②被災者の声を方言で記載する例の2つが見て取れた。こうした方言使用はどのような意図によるものなのか、明らかにするとともに考察を行いたい。

2.2.2 新聞社の方言記載意図

2.2.1の新聞記事における方言使用の調査では、大きく分けて二通りのタイプの方言使用が傾向として見られた。では、新聞社がどのような意図で被災者の声を方言で記載しているのか。それを明らかにすべく、実際にこうした用例が見られる河北新報社にインタビュー調査を行った(7月24日)。回答を頂いた方は、以下の方々である。

- ・河北新報社勤務：編集局次長 兼 紙面審査部長
 - ・河北新報社勤務：編集局生活文化部長 兼 編集委員
- 質問項目とその回答内容は以下のとおりである。

●どのような意図で方言を用いているのか

今回の震災においては、紙面に「実際に被災地の方が話している」ような臨場感やリアリティを持たせるために、会話部分を方言で掲載している。読者からはおおむね好評(とくに40～60代の方から)。一方で、「ウチの地域ではこのような方言を話さない」という意見もいただく。

●方言を記載するにあたり、どのような取材をされているのか。

取材は基本的にメモで行う。相手が方言を発話しても、記者の内省によって取材の段階で標準語に直されてしまうことが多い(内容が最も大切なため)。そのため方言を紙面に載せる際、記者は、同じ話者に何度か取材を行う、録音をするなど方言を正確に拾い上げる工夫をする。

なお、「底の浅さ」を露呈する恐れがあるため、基本的に記者が方言で取材をすることはない。紙面は期限と字数がシビアに決められている。正確な取材が求められ、かつ字数が増えることが予想されるため、方言が紙面に残ることは少ない。

以上の回答から、新聞社が方言を意図的に用いていること、およびそのために様々な工夫をしていることを窺い知ることができた。

2.3 看板などに見られたスローガンについて

看板などに見られた方言・共通語を用いた復興スローガンの写真を、アップローダーによる講義参加者の協力を得て、5月7日から7月17日（現在）にかけ、88例収集した。うち、共通語形69例（別資料B①、B②）、方言・方言と共通語の併用19例（別資料B③、B④）である。集めた用例を、スローガンが向けられた地域によって分類したのが次の表1である。類別は日本・東日本・東北・県（福島、岩手、宮城など）・詳しい地名（仙台、気仙沼、女川など）・そのほか（地名を含めていないもの）の6つに分類している。

分類の基準は以下のとおりである。

- (i) 同じ看板、ポスターが複数ある場合は1件として集計。
- (ii) 同じ写真や看板でも、異なる内容・表現・地域があれば、それぞれを1件とする。



(i)の例



(ii)の例

表1

	日本	東日本	東北	県	詳しい地名	ほか	合計
共通語	8	2	26	14	15	3	68
	100.00%	100.00%	93.10%	66.67%	62.50%	75.00%	78.40%
方言	0	0	1	7	8	1	17
	0.00%	0.00%	6.90%	33.33%	37.50%	25.00%	21.60%
合計	8	2	29	21	24	4	88

表2

	岩手	宮城	福島	栃木	東京	合計
共通語	1	58	2	1	7	69
	100.00%	75.32%	100.00%	100.00%	62.50%	78.40%
方言	0	19	0	0	0	19
	0.00%	24.68%	0.00%	0.00%	0.00%	21.60%
合計	1	77	2	1	7	88

私たちは分類をするにあたり、日本～東日本といった広い地域に対して共通語、東北～詳しい地名といった限定された地域に対して方言が用いられる傾向があるのでは、という予想を立てた。

結果として、方言の使用例は予想通り、地域が限定されるほど用例が増え、地域が広域であるほど共通語形の割合が増える結果となった。表 1 からは、特定の地域に対しては当該地域の方言でメッセージを発信し、対象地域が不特定であればあるほど共通語を用いるという傾向が伺える。日本におけるいわば公用語として、共通語であれば広い地域を指向して用いられることができ、一方、方言は特定の地域に向けた一種の心理的要素として使用されることを示しているのではないか（後述参照）。

また、スローガンの撮影地別に共通語・方言の使用の割合をみたものが表 2 であるが、方言の使用が見られたのは宮城県で撮影されたもののみで、岩手県・福島県で撮影されたものにおいては使用が見られなかった。これについては、宮城県以外のデータをさらに集めてから考える必要がある。

2.4 考察

小林（2004）は、同地域に属する者同士が直接会話する場合に、という前提はあるが、方言の現代的効用として、①相手の確認（同一地域社会に帰属する親しい仲間同士であることの確認）②発話態度の表明（その場の会話を気取らないくだけたものにしたいたいという意思表示）の 2 つがあり、現代方言の機能は心理的なメッセージの提示に重心を移してきていることを指摘している。

この指摘に即して考えると、新聞記事における方言の使用（2.2）は、②発話態度の表明という効用により重心を置くものと思われる。つまり、被災者の声を届けるにあたり、その日常性やリアリティを新聞記者が示すことで、被災者と読み手の間の心的距離を縮める役割を果たしている。また、スローガンにおける方言の使用（2.3）は、①相手の確認という効用を意図したものである。つまり、被災地の方言を用いることで、「一緒に」「みんなで」といった仲間意識を喚起させるねらいがあるのではないだろうか。

上記いずれの例に共通して言えるのは、心理的なメッセージの提示が主たる目的であるということである。今回の震災においても、そうした目的で方言が積極的に用いられているようである。

3 方言の使用に対して被災者・支援者がどのような感情を抱いているか

3.1 準備調査—方言意識に関して—

3.1.1 被災地（を含む地域）における方言意識

3.1.1.1 調査①（本多 2004）

福島県・栃木県・茨城県にわたり、70～80 歳を対象に分布調査・意識調査を行ったものである。調査項目は 7 項目で、各地域の方言に対する意識（方言を後世に残しておきたいか、この地域の方言は味があることばだと思えるか、など）、どのような場面で方言を使用するか（知らない人と町内で話すとき、など）、また、方言・地域の属性（関東・東北の二択）を尋ねる項目が設定されている。

●ポイント

- ・東北本線側を「北上する」、または「沿線を離れる」につれ、方言形使用数値が高くなり凹凸が見

られる。

- ・常磐線側の浜通りは、方言形使用数値が80%代と比較的高い上、それが、南から北まで多地点にわたり存在している。
- ・茨城県は福島県より方言の使用度が低いとみられる。
- ・常磐線沿線では方言が「好き」か、「どちらでもない」と答えた人が多い。但し都市部では、家族と話すとき「方言を使いたくない」という傾向がみられる。

●考察

ここでは、世代差はほとんど無く、中若年層も老年層と同様の意識であると報告されている。一方で、プラス意識・マイナス意識の地域差、すなわち、都市化地域におけるマイナス意識と共通語選択（共通語化）の関係が指摘されている。これは、その地域の都市化の度合いや段階によって、方言に対する意識が変わってくる可能性を示唆している。

3.1.1.2 調査②（半沢 1998）

福島県全域と山形県置賜地方の高校生を対象に、方言意識について聞いた調査。3種類の非標準語形を示し、自身の使用状況について、「1. よく言う 2. たまに言う 3. 聞くけど言わない 4. 聞いたことがない」のように「よく言う」ほど点数が高くなるように点数化している。

また、福島・山形の方言が好きか、東京で方言を使うのは恥ずかしいことと思うか、といった質問を設定し、これについても「1. 大変好き 2. どちらかと言えば好き 3. どちらでもない 4. どちらかと言えば嫌い 5. 大変嫌い」のように点数化、グラフ化している。

●ポイント

- ・「方言が好き」と答えた人ほど方言を使う傾向（福島・置賜）。
- ・福島では「方言が恥ずかしくない」と答えた人は、「恥ずかしい」と答えた人に比べて方言を使う傾向。置賜では使用頻度により大きな差が見られない。
- ・「方言が好き」であるほど「方言が恥ずかしい」と答えた人は少なくなる（福島・置賜）。

●考察

方言を普段あまり使わず、また方言が嫌いで恥ずかしいと思っている人もいる。激励のスローガン等に方言を用いても、それに対して特別な感情を持たない人も多いのではないかと？

3.1.1.3 調査③（早野 2007）

常磐大学（水戸市）に在学する茨城生え抜き話者（18～22歳）を対象に、「東京語話者」と「茨城語話者」それぞれの話者特性のイメージを調査したもの。パーソナリティ（のんき、冷静、など）、対人対応（ぞんざい、親切、など）、知的・教養（知的、文化的、など）、外見（容姿端麗、地味、など）、経済的要素（貧富）のそれぞれについて、話者イメージをグラフ化し、「東京語話者」と「茨城語話者」双方の特徴的なイメージを浮かび上がらせている。

●ポイント

- ・方言話者にもステレオタイプのイメージが付随しており、不適切な評価を受けている。
- ・茨城話者に対するイメージは、「知的でない」「非文化的」「容姿端麗でない」「貧乏」など、中には言語とは関係のないような項目にもネガティブなイメージが付随している。

●考察

地元の方言を使うことに対して自虐的。前述の福島・置賜の調査結果のように、方言使用を嫌がったり、恥ずかしいと思っている人がいるということの表れではないか？

3.1.2 他地域の人々から見た被災地の方言に対するイメージ

- ・東北地方・東北近隣地域のことばに対する差別的意識、及びそこから生まれたトラブルの例（小松代 1982）

- ①東北出身の青年が宮田アナとのやりとりで、方言を店で使うたびに、札を胸にぶら下げさせられるという話をしていた。（岩手日報、投書 昭38・9・12）
- ②東北弁笑われて殺人……秋田から集団就職の少年工員（毎日新聞、昭39・5・14）
- ③兄の婚約者を殺す。栃木ナマリをからかわれた少年（毎日新聞夕刊、昭40・8・27）

3.1.3 先行研究の限界

ここまで方言意識に関して述べた先行研究を見てきたが、これらは方言使用がネガティブに受け取られている可能性を示唆するものである。

しかし、これらの先行研究だけではまだ不十分である。その理由は2つあり、第1に、市町村単位の先行研究はほとんど見当たらず、今回の被災地に限定することは難しいため。第2に、今回のような、大震災の復興支援のスローガンなど（における方言使用）という、特殊な状況下であっても従来の方言意識があてはまるのかという疑問が残るためである。

3.2 方言を用いた復興スローガンに対する意識

3.2.1 調査の目的

今回の震災以降、スローガンなどにおいて被災者を激励する目的で方言を使用する例が多く見られるが、こうした方言使用を見て被災者がどのような印象を持つのか、また実際に被災者の役に立つものであるか、被災者の意見を直接聞く必要がある。

また、支援者がどのような意図からこうしたスローガンを考案したり、使用したりするのか、その意識を問うことも重要である。被災者と支援者の間で、このような方言使用に対する意識の差があるかもしれないからである。

本調査の目的は、以上のような観点から、インタビュー調査を行うことで、実際に被災者や支援者がどのような感情を抱いているのかを明らかにするものである。

3.2.2 調査の概要

【実施日】(第一回) 2011年7月24日 (第二回) 2011年9月16日

【調査地】気仙沼市

【調査対象者】被災者(震災時市内に居住、現在も市内で生活する人)

支援者¹(県内外から来て、市内で支援活動を行う人)

※対象者の年齢、性別は問わない。

調査方法としては、各質問項目について、対象者に1人ずつ口頭で質問し、得られた回答を調査票に記入。また、それぞれの質疑応答をSDレコーダー(EDIROL)で録音した。

実際に、以下のような人々から回答を得ることができた。

(第一回)

- ・気仙沼市社会福祉事務所(8名)
兵庫県丹波市、長野県東御市、東京都江戸川区からの派遣職員
- ・気仙沼市災害ボランティアセンター(9名)
県内外からボランティア活動に参加する支援者
- ・気仙沼・本吉広域防災センター(1名)
防災センターで避難生活を送っている被災者
- ・市内その他(3名)
市内で小売店、飲食店などを営む被災者

(第二回)

- ・気仙沼市仮設住宅(13名)
仮設住宅で避難生活を送っている被災者

当初、避難所となっている気仙沼総合体育館でも支援者・被災者に話を伺う予定だったが、現在避難者の数も増え、支援スタッフの人手が足りない状態であるとのことで、ここでの調査は断念した。また、被災者の心情や避難所における環境に配慮して、調査の場も限られたため、第一回目の調査は、結果として被災者に対しては僅かしか聞き取りができず、支援者側の回答を多く得ることとなった。本調査の主なねらいが被災者側の意識の聞き取りであるため、第二回目の調査を行うことで補った。

質問内容は、被災者向けと支援者向けで設問を変え、調査票を別に分けた。それぞれの質問項目は以下の通りである。

●[被災者向け質問項目](調査票:別資料C① 提示シート:別資料C③、C⑤、C⑥)

1. あなたは、地元の方が好きですか。²

¹ 第一回目の調査のみ。

² 被災地の方言意識について知る狙い

2. 支援者から方言で話しかけられたことはありますか。³
3. 方言を用いた復興スローガンに、親近感を感じますか。⁴
4. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)目立つと思いますか。⁵
5. ①地元以外の方が方言を使用してスローガンを作ることについて、どう思いますか。
5. ②地元の方が方言を使用してスローガンを作ることについて、どう思いますか。⁶

●【支援者向け質問項目】(調査票：C② 提示シート：別資料C④、C⑤、C⑥)

1. あなたは、被災地の方言が好きですか。²
2. あなたは、被災地の方とのコミュニケーションに被災地の方言を使うことがありますか。³
3. 方言を用いた復興スローガンは、被災者に親近感を感じてもらえると思いますか。⁴
4. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)目立つと思いますか。⁵
5. ①被災地以外の方が方言を使ってスローガンを作った時、被災者の方は好感を持つと思いますか。
5. ②被災地の方が方言を使ってスローガンを作った時、被災者の方は好感を持つと思いますか。⁶
6. あなたが、被災者を激励するスローガンを作るとしたら、どのことばを使って作りますか。

調査結果は別資料D①、D②を参照されたい。

3.2.3 考察

- ・被災地の方言が好きかという問いに関しては、支援者・被災者ともに、否定的な回答はなく、概ね方言に対して好意的であるといえる。
- ・支援者は被災者とのコミュニケーションに方言を使うことはほとんどない。ただ、今回インタビューを行った支援者は、気仙沼に来てまだ日が浅い人が多かった。「長く滞在すれば訛りや方言が移ってしまうかもしれない」という意見も数名から得た。方言は意図的に真似するものではない、という意識が見られる。
- ・「共通語「がんばろう」で十分、方言はやりすぎでは」「スローガンに親近感を持たせること自体難しい」という意見はあるものの、方言を用いたスローガンに対して支援者・被災者とも概ね肯定的である。方言が持つ親近感や一体感の創出という機能を認識している人が多いと言える。
- ・方言を使用したスローガンが共通語と比べて目立つかという問いに対しては、「目立つ」と答えた対象者の方が多いものの、「目立たない」とした回答も支援者に見られた。「目立たない」理由としては、「標準語の方が使い慣れているのですぐ目に付く」といった意見が見られた。ただし、「方

³ 現地の実態から方言の機能を知る狙い

⁴ 方言が持つと思われる「親近感・一体感の創出」という機能が、実際に働いているかを知る狙い

⁵ 方言が持つと思われる「アピール効果」という機能が、実際に働いているかを知る狙い

⁶ 誰が方言を利用するかということが、方言機能を弱める可能性を知る狙い

- 言の方が見慣れないので目を引く」という意見もあり、これは個人差によるのではないか。被災者の回答には、「どちらでもない」が40～60代に見られた。これは共通語が普及する過程で、いわば方言と共通語のバイリンガルとなり、どちらも同等に扱える世代の感じ方なのかも知れない。
- ・県外から来た支援者は、「被災地以外の方が被災地の方言を使用してスローガンを作ること」に消極的である。「方言のニュアンスがわからない」という意見のほか、「方言は中途半端に真似すべきではない」という意見があった。しかし一方で被災者はこれを好意的に捉えており、被災地以外の方が思っているよりも特にこだわりはないようである。県内や東北出身の支援者の中にも、好意的な意見がみられた。また、被災者の回答には、地域の方言スローガン作成を通じた、地元の住民と支援者との協力体勢を指摘・期待すると見られる声もあった。
 - ・「どの言葉を使ってスローガンを作りたいか」という問いに関しては、前述のように「ニュアンスが分からない」などの意識から、無難に「共通語」や「自分の地域の方言」を選択する支援者が多くなったと思われる。5.①で肯定的な回答をした支援者は、概ね「被災地の方言」を選択していることが分かる。

当初、地元の方が好きでないという被災者もいるのではないかと、もしその場合は方言を使用したスローガンも激励の効果が無いのではないかと予想していたが、今回方言を「嫌い」と答えた対象者がいなかった。そのため、方言の好き嫌いと言語を使用したスローガンに対する意識との関連は分からなかった。しかし、今回の調査結果を見る限り、方言スローガンに対する印象は概ね好意的であると見て良いだろう。一方、方言使用による「アピール効果」については意見が割れており、一概に結論を出すことはできない。

誰がどの方言を使うべきかという面では、予想に反して支援者と被災者の間に意識の差が見られる。他地域からの支援者としては、安易に被災地の方言を使用すべきではないという傾向が強い（項目5①、5②、6）一方で、被災者や被災地域出身の支援者は、他地域出身者による方言使用に概ね肯定的である（項目5①）。ただし、そうした方言使用に際しては、地域の方の協力を仰ぐなどして、方言の正しい使い方を理解しておくことが重要であると言える。

なお、被災者が被災地の方言を使ってスローガンを作ることには、概ねの対象者が賛同している。

4 おわりに

震災に直面し、復興に向かう人々の中で方言がどのような機能を果たしているか、方言意識、新聞記事、スローガン、被災者対支援者といった角度から見てきた。

今回の調査により、新聞社（特に地域紙）は紙面への方言の使用には慎重な姿勢であること、そして、方言を記事に採用する際には「臨場感やリアリティを持たせる」というように、意図性があることが分かった。

復興スローガンの分析からは、スローガンに読み込まれる地域が狭ければ狭いほど（対象地域ははっきりしていればしているほど）、方言形が使われやすく、対象地域が広範囲に設定されているほ

ど共通語形が使われやすい傾向が見られた。これは、方言スローガンに対する意識調査で「方言は中途半端に真似するべきではない」「その地域の方言をよく分かっている人が作るべき」という意見があったことや、新聞社に届く「ウチの地域ではこのような方言を話さない」という指摘と合わせて考えると、地域が細かく指定されていた方が方言を適切に取り入れることが出来るからという面があるのではないであろうか。また、被災者への調査で「自分の地域の名前が挙げられていると嬉しい」という意見があったが、宮城県ではなく、もっと細かい自分の市区町村の名前が挙げられ、さらに自分の土地の言葉がスローガンに掲げられ、日本中から注目を浴び、応援されることの心強さ、そういった被災者側の反応も、詳細な地名と方言形スローガンの結びつきに反映されているのではないか。

関東圏（東京都・栃木県）に方言スローガンが見られなかったのは、支援者側から出た「(被災地以外の人では) 方言のニュアンスが分からない」ということも関わっているのではないか。

話者の一つ一つの発言に注目してみれば見るほど、方言の機能には様々な要素が複雑に絡んでいくように感じられてくる。多様な可能性を提示するにとどまった感が否めないが、震災直後という場で、方言が果たしうる役割の一端は記すことが出来たかと思われる。被災地での避難生活は今も続いている。直接的な支援にはならないが、このうねりの中で変化して行くであろう被災地の言葉や、土地の言葉に対する地域住民の思いを捉えていくことができればと思う。

文 献

論文など

小林隆 (2004) 「アクセサリーとしての現代方言」『社会言語科学』7 (1)

小林隆 (2007) 「方言機能論への誘い—「シリーズ方言学」の世界」『シリーズ方言学 3 方言の機能』岩波書店

本多真史 (2004) 「関東・東北接触地帯における話者の言語意識と方言使用の関わり」『いわき明星大学大学院人文学研究科紀要』第2号

小松代融一 (1982) 「東北方言と国語」『講座方言学』4

半沢康 (1998) 「方言使用と方言評価意識に関する因果分析の試み—東北地方南部高校生アンケートの結果から—」『国語学研究』37

早野慎吾 (2007) 「国語科教育における地域言語学教育 (2) : 方言の役割について」『宮崎大学教育文化学部紀要』17

新聞記事

『読売新聞』平成23年3月29日「がんばっぺ！お国なまりで自衛隊員、被災地応援」

『朝日新聞』東京版 朝刊 36面 「いま伝えたい」平成23年5月9日、平成23年5月11日、平成23年5月12日

『毎日新聞』平成23年5月13日朝刊「岩手に自転車50台 岐阜市が高校生支援／岐阜」

『毎日新聞』平成 23 年 5 月 23 日朝刊「被災地の特産物即売で支援 川崎の商店街「物産市けえ」
／神奈川」

サイト

NHK ラジオ番組「やるっちゃ！宮城」<http://www.nhk.or.jp/sendai/top/yaruccha/>

がんばっぺいわき <http://www.mizdesk.com/gbpi/>

【楽天市場】カテゴリ：けっばれ！東北/チャリティグッズ

<http://item.rakuten.co.jp/yakyu-da/10000790>

東日本大震災被災地復興支援 がんばっぺしプロジェクト <http://ganbappeshi0311.com/>

アップローダー<http://ux.getuploader.com/>

別資料 B①・共通語のスローガン (2.3)

	撮影地	日付	内容
共通語			
がんばろう系			
1	定義山ある店の隣	2011.06.25	「がんばろう日本」
2	青葉区上愛子ガソリンスタンド	2011.06.25	「がんばろう日本」
3	仙台駅西口停車中	2011.07.02	「がんばろう日本」
4	仙台街中のアーケード内・パチンコ店	2011.06.25	「がんばれ、日本。がんばれ、東北。」
5	気仙沼	2011.06.18	「頑張れ日本がんばろう！気仙沼」
6	渋谷公園通り	2011.05.07	「がんばれ東日本」
7	佐野サービスエリア	2011.06.15	「がんばろう東日本」
8	仙台駅	2011.05.09	「がんばろう東北!!」
9	仙台駅	2011.05.09	「がんばろう！東北」
10	仙台駅弁（野辺地のとりめし）	2011.05.09	「がんばろう東北」
11	仙台駅前ホテル	2011.05.09	「がんばろう東北」
12	仙台駅前ロフト	2011.05.09	「がんばろう東北!!」
13	東北大学入り口付近	2011.05.24	「がんばれ！東北！」
14	仙台S-PAL	2011.05.26	「がんばろう！東北」
15	東京タワー近く	2011.06.15	「がんばろう東北!!」
16	JRあおば通駅内びゅうプラザ	2011.06.21	「頑張ろう東北」
17	仙台市青葉区大町のREAL Style SENDAI（家具）	2011.06.25	「がんばろう！！東北」
18	仙台市青葉区中央のコンビニ（サンクス）	2011.06.25	「がんばろう東北」
19	仙台街中のアーケード・パチンコ店	2011.06.25	「がんばろう東北！」
20	東京タワー下	2011.06.15	「がんばろう東北！がんばろう大船渡！」
21	東京タワー下	2011.06.15	「がんばろう東北！がんばろう大船渡！」
22	気仙沼	2011.06.18	「頑張ろう東北／一緒にがんばろう！東北／ がんばろう！東北」
23	仙台キャン・ドウ	2011.05.15	「がんばろう宮城！がんばろう東北！」
24	仙台駅前ロフト	2011.05.09	「がんばろう！東北・仙台」
25	LABI（仙台）	2011.05.22	「がんばろう！宮城」
26	仙台市青葉区中央のケンタッキー	2011.06.25	「がんばろう！宮城」
27	気仙沼	2011.06.18	「がんばろう！いわて・みやぎ」
28	（気仙沼）	2011.06.18	「ガンバロウ岩手」
29	仙台街中のアーケード内・笹かまぼこ店	2011.06.25	「頑張ろう東北宮城！」
30	虎屋横丁	2011.06.28	「がんばろう東北がんばろう宮城」
31	気仙沼	2011.06.18	「がんばろう！気仙沼」
32	仙台ダイエー	2011.05.10	「がんばろう仙台」
33	仙台市青葉区中央の鯛さち（たいやき屋）	2011.06.25	「がんばろう仙台！」
34	仙台街中のアーケード内・パチンコ店	2011.06.25	「がんばろう！仙台！！」
35	新宿西口チャリティー物産展	2011.06.29	「がんばろう!!福島!!」
36	安達太良サービスエリア	2011.06.15	「がんばります!!福島」
37	安達太良サービスエリア	2011.06.15	「がんばります福島」
38	仙台街中のアーケード内・パチンコ店	2011.06.25	「東北、頑張るぞ！！」
39	気仙沼	2011.06.18	「がんばれ！気仙沼」
がんばろう+α			
40	仙台駅弁（みやぎ蔵王弁当）	2011.05.09	「復興へがんばろう！みやぎ」
41	研究室行事で利用したバス	2011.06.25	「復興へ頑張ろう!みやぎ」
42	仙台港フェリーターミナルビル2階の売店	2011.06.09	「復興へ頑張ろう!みやぎ （フェリーは自衛隊なども利用している様子でした）」
43	仙台市役所	2011.05.10	「がんばろう仙台 私たちの街だから」
44	ニッカキスキー工場の駐車場に停車中のバス	2011.06.25	「バスを通して地域に奉仕！がんばろう宮城！」
45	仙台のダイエー（アーケード側入口）	2011.06.25	「がんばろう仙台 未来への絆」
ほか			
46	気仙沼	2011.06.18	「元気になる東北！！元気になる気仙沼！！」
47	クリスロード商店街（仙台）	2011.05.10	「私たちは負けない！」
48	仙台区役所	2011.05.10	「ともに、前へ 仙台」
49	仙台市青葉区大町の蕎麦屋前	2011.06.25	「たちあがれ！！仙台」
50	仙台市青葉区中央の坐・和民の看板	2011.06.25	「立ち上がろう！SENDAI」
51	気仙沼	2011.06.18	「負けないで下さい。ずっと応援させていただきます」

共通語

別資料B② (2.3)



別資料 B③・方言、方言と共通語併用のスローガン (2.3)

	撮影地	日付	内容
方言			
1	仙台駅・新幹線改札内の女性トイレ入口	2011.05.30	「がんばっぺ！仙台！」千羽鶴
2	S-PAL仙台みやげ館一笹蒲鉾高政	2011.06.14	「がんばっぺ女川」
3	気仙沼	2011.06.18	「インフルエンザ流行しはじめた様です。うがい・手洗い・マスク予防すっぺし」
4	気仙沼	2011.06.18	「がんばっぺ！気仙沼」
5	気仙沼	2011.06.18	「がんばっぺし！気仙沼」
6	気仙沼	2011.06.18	「がんばっぺ気仙沼！！」
7	気仙沼	2011.06.18	「頑張っぺ！気仙沼」
8	気仙沼郵便局	2011.06.18	「がんばっぺし気仙沼」
9	GAME TAITO STATION（仙台街中のアーケード）	2011.06.25	「がんばっぺ宮城」
10	GAME TAITO STATION（仙台街中のアーケード）	2011.06.28	「がんばっぺ宮城」
11	GAME TAITO STATION（仙台）ヒリヤード階段	2011.06.28	「がんばっぺ宮城」
12	GAME TAITO STATION（仙台）店内太鼓の達人	2011.06.28	「がんばっぺ宮城」
方言・共通語併用			
1	仙台駅・新幹線改札内の女性トイレ入口	2011.05.30	「ガンバレ日本／がんばろう！！東北／がんばっぺ仙台／心をつな／つながろう日本」千羽鶴
2	フェリー・きたかみ（仙台-苦小牧）の売店	2011.06.09	「がんばっぺ東北!!／がんばろう日本！」
3	仙台SLOP店前（パチンコ店）	2011.06.09	「頑張ろう東北！がんばっぺ宮城」
4	仙台駅西口パチンコ屋宣伝カー	2011.07.02	「がんばろう東北がんばっぺ宮城」
5	仙台駅西口工事看板	2011.07.02	「がんばろう東北がんばっぺ宮城」



●（被災者の方）

お名前：_____ ご出身地：_____ 都・道・府・県 性別：男・女

年齢：□10代 □20代 □30代 □40代 □50代 □60代 □70代以上

1. あなたは、地元の方が好きですか。（地元の方言意識について知る狙い）

□好き □どちらかという好き □どちらでもない □どちらかという嫌い □嫌い

2. 支援者から方言で話しかけられたことはありますか。（現地の実態から方言の機能を知る狙い）

□ある □ない

（ ）→どう思ったか：

<資料のように、復興のスローガンに方言が用いられている例があります。>

3. ①方言を用いた復興スローガンに、（共通語のスローガンと比べて）親近感を感じますか。

（方言が持つと思われる「親近感・一体感の創出」という機能が、実際にはたらいているかを知る狙い）

□感じる □どちらかという感じる □どちらでもない □どちらかという感じない □感じない

②(3. ①でどちらかという感じない/感じないと答えた方)なぜ、そう思われましたか？

--

4. ①方言を用いた復興スローガンは、（共通語のスローガンと比べて）目立つと思いますか。

（方言が持つと思われる「アピール効果」という機能が、実際にはたらいているかを知る狙い）

□目立つ □どちらかという目立つ □どちらでもない □どちらかという目立たない □目立たない

②(4. ①でどちらかという感じない/感じないと答えた方)なぜ、そう思われましたか？

--

5. ①地元以外の方が方言を使用してスローガンを作ることについてどう思いますか。
(「誰が方言を利用するか」ということが、方言機能を弱める可能性を知る狙い)

良い どちらかというが良い どちらでもない どちらかというと嫌だ 嫌だ

- ②地元の方が方言を使用してスローガンを作ることについてどう思いますか。

良い どちらかというが良い どちらでもない どちらかというと嫌だ 嫌だ

- ③(5. ①・②の回答が異なる場合)なぜ、○の方が良いと思われましたか？

--

☆（支援者の方）

お名前：_____ ご出身地：_____ 都・道・府・県 性別：男・女

年齢：□10代 □20代 □30代 □40代 □50代 □60代 □70代以上

1. あなたは、被災地の方言が好きですか。（被災地の方言意識について知る狙い）

□好き □どちらかという好き □どちらでもない □どちらかという嫌い □嫌い

2. あなたは、被災地の方とのコミュニケーションに被災地の方言を使うことがありますか。（現地の実態から方言の機能を知る狙い）

□ある □ない

（ _____ ）→なぜ使ったか：

<資料のように、復興のスローガンに方言が用いられている例があります。>

3. ①方言を用いた復興スローガンは、（共通語のスローガンと比べて）被災者に親近感を感じてもらえると思いますか。

（方言が持つと思われる「親近感・一体感の創出」という機能が、実際にはたらいっているかを知る狙い）

□思う □どちらかという思う □どちらでもない □どちらかという思わない □思わない

②(3. ①でどちらかという思わない／思わないと答えた方)なぜ、そう思われましたか？

--

4. ①方言を用いた復興スローガンは、（共通語のスローガンと比べて）目立つと思いますか。

（方言が持つと思われる「アピール効果」という機能が、実際にはたらいっているかを知る狙い）

□目立つ □どちらかという目立つ □どちらでもない □どちらかという目立たない □目立たない

②(4. ①でどちらかという目立たない／目立たないと答えた方)なぜ、そう思われましたか？

--

5. ①被災地以外の人が方言を使用してスローガンを作ったとき、被災者の方は好感を持つと思いますか。
(「誰が方言を利用するか」ということが、方言機能を弱める可能性を知る狙い)

好感を持つと思う どちらかという好感を持つと思う どちらでもない どちらかという嫌悪感を持つと思う 嫌悪感を持つと思う

②被災地の人が方言を使用してスローガンを作ったとき、被災者の方は好感を持つと思いますか。

好感を持つと思う どちらかという好感を持つと思う どちらでもない どちらかという嫌悪感を持つと思う 嫌悪感を持つと思う

③(5. ①・②の回答が異なる場合)なぜ、○の方が好感を持たれると思われましたか？

6. あなたが、被災者を激励するスローガンを作るとしたら、どのことばを使って作りますか。

被災地の方言(例:がんばっぺ、がんばっぺし等)

()

共通語

()

あなたの出身地の方言

()

その他

()

●

お名前: _____	ご出身地: _____	都・道・府・県	性別: 男・女
年齢: <input type="checkbox"/> 10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代以上			

1. あなたは、地元の方言が好きですか。

好き どちらかという好き どちらでもない どちらかという嫌い 嫌い

2. 支援者から方言で話しかけられたことはありますか。

ある ない

<資料のように、復興のスローガンに方言が用いられている例があります。>

3. ①方言を用いた復興スローガンに、(共通語のスローガンと比べて)親近感を感じますか。

感じる どちらかという感じる どちらでもない どちらかという感じない 感じない

4. ①方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)目立つと思いますか。

目立つ どちらかという目立つ どちらでもない どちらかという目立たない 目立たない

5. ①地元以外の方が方言を使用してスローガンを作ることについてどう思いますか。

良い どちらかという良い どちらでもない どちらかという嫌だ 嫌だ

②地元の方が方言を使用してスローガンを作ることについてどう思いますか。

良い どちらかという良い どちらでもない どちらかという嫌だ 嫌だ

☆

お名前：_____ ご出身地：_____ 都・道・府・県 性別：男・女

年齢：□10代 □20代 □30代 □40代 □50代 □60代 □70代以上

1. あなたは、被災地の方言が好きですか。

□好き □どちらかという好き □どちらでもない □どちらかという嫌い □嫌い

2. あなたは、被災地の方とのコミュニケーションに被災地の方言を使うことがありますか。

□ある □ない

<資料のように、復興のスローガンに方言が用いられている例があります。>

3. ①方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)被災者に親近感を感じてもらえると思いますか。

□思う □どちらかと思う □どちらでもない □どちらかと思わない □思わない

4. ①方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)目立つと思いますか。

□目立つ □どちらかという目立つ □どちらでもない □どちらかという目立たない □目立たない

5. ①被災地以外の方が方言を使ってスローガンを作った時、被災者の方は好感を持つと思いますか。

□好感を持つと思う □どちらかという好感を持つと思う □どちらでもない □どちらかという嫌悪感を持つと思う □嫌悪感を持つと思う

②被災地の方が方言を使ってスローガンを作った時、被災者の方は好感を持つと思いますか。

□好感を持つと思う □どちらかという好感を持つと思う □どちらでもない □どちらかという嫌悪感を持つと思う □嫌悪感を持つと思う

6. あなたが、被災者を激励するスローガンを作るとしたら、どのことばを使って作りますか。

□被災地の方言(例:がんばっぺ、がんばっぺし等)

□共通語

□あなたの出身地の方言

□その他



産直市場

がんばろう東北

復興へ
がんばろう!
東北

GANBARO TOHOKU
東日本大震災復興応援

がんばろう、
東北。

われわれ株式会社マルハンは「東北地方太平洋沖地震」被災地の方々の復興支援に協力しております。

私達マルハンは東北地方太平洋沖地震にて被災された皆様に対しお見舞いを申し上げますとともに1日も早い復興を目指した支援に協力しております。

尚、イベントCM、折込チラシ、営業メール等におきましては当面の間、自粛と致します。

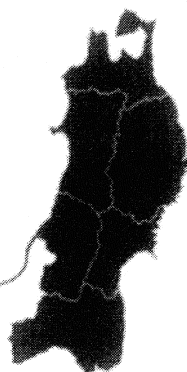
また、店舗内外の一部照明におきましても資源抑制の為、消灯しております。

ご理解と御協力をお願い致します。



HOPE
がんばろう
TOHOKU

みんなと共に
がんばろう!
東北

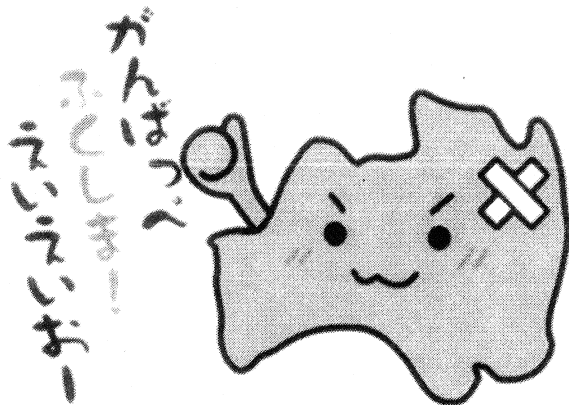


がんばれ、
東北。
がんばれ、
日本。



がんばっぺ! 茨城


GAMBA-PPE! Ibaraki



おらだ ● 東北
がんばっぺ

やるぞ日本。負けるな東北。



おらほ  宮城
がんばっぺし
やるべ東北。負けんな宮城。

調査場所	店舗			防災センター	
出身地・在外歴	出身地:宮城県気仙沼市 在外歴:宮城県仙台市	出身地:宮城県気仙沼市 在外歴:宮城県仙台市	出身地:愛媛県西条市 在外歴:東京都、宮城県仙台市、気仙沼市	出身地:宮城県気仙沼市	
性別	男	男	男	男	
世代	40代	40代	50代	60代	
質問項目	1. あなたは、地元の方が好きですか。	どちらかという好き (好き～どちらかという好き)	どちらかという好き 元は嫌い(学生時)。懐かしい。外国語みたい。方言使う人が減った(祖父母がいなくなり、聞かなくなった)。	好き 来て3～4年は違和感。子供が方言しゃべるようになり、一緒に使うようになってから好きになった。	好き
	2. 支援者から方言で話しかけられたことはありますか。	ない	ない ※(今回のことで)外の人(他地域から来た人)と接触無し。	ない 支援者などから彼らの地元の言葉で話しかけられて違和感を持ったことはある。/土地の言葉じゃないと違和感がある	ない 標準語で話す
	3. 方言を用いた復興スローガンに、(共通語のスローガンと比べて)親近感を感じますか。	感じる (スローガンの中に)「気仙沼」(の地名)が入ると嬉しい	感じる	感じる	感じる
	4. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)目立つと思いますか。	目立つ 地元で普段話している(言葉が)活字化されている点で目を引く	どちらでもない ※「変わらない」イラストなど、色・デザインでは目がいくが…	どちらでもない 目立つか目立たないかで言うと。方言の方が励みになると言う意味では、方言の形にして欲しい。/目立つ目立たないのは必要ない。方言の方がやる気になる。	目立つ
	5.①地元以外の方が方言を使用してスローガンを作ることについてどう思いますか。	どちらかという良い (良い～どちらかという良い)ありがたい。親しみ込めてやってもらってる。	どちらかという良い 合わせてくれる。ドラマで(自分の地域で使わない)違うこと・訛り言われると違和感だが。←田舎扱い。	どちらでもない	嫌だ 真似るのがマイナス/四国弁で言うべき/四国なのががんばっぺしはへんだ。
5.②地元の方が方言を使用してスローガンを作ることについてどう思いますか。	どちらでもない ③→(①と②で)そんな違いはない。具志堅の「チョツチュネー(そうですね)」などあるが、(今回のことに関しては)おちゃらけでやってる訳じゃないことが分かるので。	良い ③→被災した本人達がやる気になってやらないとダメ。「がんばろう」だと?ただ被災者側にだけ言われてるよう。	どちらでもない 目的が問題。そして震災のレベルによる。誰が作ったかは関係ない。役立つものだったら、誰にでも作って欲しい。合っていれば良い(方言の使い方?)	良い	

調査場所	仮設住宅				
出身地・在外歴	出身地:宮城県気仙沼市 在外歴:宮城県仙台市、岩沼市	出身地:宮城県気仙沼市	出身地:宮城県気仙沼市	出身地:宮城県気仙沼市	
性別	女	男	女	男	
世代	30代	60代	30代	60代	
質問項目	1. あなたは、地元の方が好きですか。	好き	どちらでもない (どちらとも言えない)	どちらでもない	好き
	2. 支援者から方言で話しかけられたことはありますか。	ない	ない	ない	ない 標準語で話す
	3. 方言を用いた復興スローガンに、(共通語のスローガンと比べて)親近感を感じますか。	感じる		感じる	感じる
	4. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)目立つと思いますか。	目立つ 自分で減多に使わない、分からない。でも通じるから。	目立つ 小さい頃から聞き慣れたことばだから。馴染みの方言だけど、だからといって、励まされるわけではない。	目立つ 親しみがあって、自然に入ってきやすい。	目立つ 方言の方が、言ったり聞いたりするのに良い。
	5.①地元以外の方が方言を使用してスローガンを作ることについてどう思いますか。	良い	良い	どちらでもない	どちらかという嫌だ ③→親近感が無く、変。特別に使っている感じ。(その場合、共通語の方が気分は良い)
	5.②地元の方が方言を使用してスローガンを作ることについてどう思いますか。	良い ③→(①と②で)違いはない	良い ③→区別なし。応援、支援、声掛けしてもらえる。内容じゃない。方言の意味を追求するわけではない。(①も②も表現が)やわらかくて良い。	良い	良い

調査場所	仮設住宅			
出身地・在外歴	出身地:宮城県気仙沼市 在外歴:宮城県仙台市	出身地:宮城県気仙沼市 在外歴:白石市、石巻市、仙台市、登米市、栗原市	出身地:岩手県一関市 在外歴:神奈川、東京、気仙沼	
性別	女	男	女	
世代	60代	60代	50代	
質問項目	1. あなたは、地元の方を好きですか。	好き	好き	どちらでもない
	2. 支援者から方言で話しかけられたことはありますか。	ない 「ばくだん」というのほりを掲げ、支援物資として米菓が出ていた。担当者に「私はパットライスと言いますよ」と言うと、すぐに「パットライスありますよー」と言い直していた。(言い換えに対して)→良かった。親しみを感じた。色んな言い方があり、向こうではそう言うんだなと思った。	ない	ない (大阪・神戸の人は自分の地元のことばを使う)
	3. 方言を用いた復興スローガンに、(共通語のスローガンと比べて)親近感を感じますか。	感じる	感じる よく見る。地元の新聞にも出る。	感じる
	4. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)目立つと思いますか。	目立つ 共通語の印刷物は見慣れている。(それに対し)方言のものは、見慣れていなくて、「あれっ?」(と思う。)やる気が感じられる。	目立つ 「がんばろう」より「がんばっぺし」とあった方が、余所のの方が(分かりやすいのでは)。地元の人は見慣れている。商工会や若い人が頑張っているのでないか。	どちらでもない 私たちは見慣れている。(外から来た人には目立つかも?)地元の言葉であると分かりやすい。昭和一桁生まれのお年寄りの人は、(地元を)出たことがない。方言でないとならない場合も。昭和二桁生まれは、方言・共通語の両方が分かる。平成生まれは方言だと分からない
	5.①地元以外の方が方言を使用してスローガンを作ることについてどう思いますか。	良い	良い 地元以外の方が作っても、気仙沼にその人達が溶け込むためには(良いのでは)。余所から来た人には気仙沼の方言は難しいのでは。)作るとなれば、研究して、地元の人にも聞いて、これだ、というのを作ると思うので良いのでは。	観光客だと違う。学生とか、(その土地に)住んでいるなら同じ県民という意識。
	5.②地元の方が方言を使用してスローガンを作ることについてどう思いますか。	良い ③→作り手は関係なく、良い。②は、こっちの(気仙沼の)人が作ったなあ、と思う。東京の人は方言では作らない。	良い	昔と違い、恥ずかしくない。今はお笑いなど(でも使われている)。そういうの(恥ずかしさ)は無いので、それはそれで良い。

調査場所	仮設住宅				
出身地・在外歴	出身地:宮城県気仙沼市	出身地:宮城県気仙沼市 在外歴:東京都	出身地:神奈川県川崎市 在外歴:気仙沼	出身地:岩手県 在外歴:宮城県気仙沼市、仙台市、東京都	
性別	女	女	女	女	
世代	70代以上	60代	70代以上	20代	
質問項目	1. あなたは、地元の方言が好きですか。	好き 嫌いな所もあるけれど。	好き	好き	どちらでもない
	2. 支援者から方言で話しかけられたことはありますか。	ない	ない	ない 方言でもなく、標準語。	ない
	3. 方言を用いた復興スローガンに、(共通語のスローガンと比べて)親近感を感じますか。	感じる 「がんばっぺ」の方が。 (他に)「がんばらいや」「おらほでがんばっぺ」「みんなでがんばらいや／がんばっぺ」	感じる 「がんばっぺ」の方が好き。	どちらかというと感じない 標準語に近いことばの方が多くなってきたため。	どちらかというと感じる (方言と共通語)どちらも「がんばろう」は作り手受け手で温度差があって嫌で、こう言うのは求めていない、と思う。(特に)共通語は押しつけがましく感じる。
	4. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)目立つと思いますか。	目立つ	目立つ 昔の人だから。方言の方が好きだから。	目立つ 使い慣れているし。「がんばっぺ」は男。「がんばっぺす」は女。	
	5.①地元以外の方が方言を使用してスローガンを作ることについてどう思いますか。	良い 「気仙沼では、がんばりましょう、ってことなんだよ」とコミュニケーション(のきっかけになるのでは)?	どちらでもない	どちらでもない	作る時、地元の人には聞いているのだから、何とも言えない。良い悪いではなく、何とも言えないが、同じ言葉でも方言と共通語で含んでる意味が違うのでは。それを作り手の人が分かり切っていないで使っているのでは。
	5.②地元の方が方言を使用してスローガンを作ることについてどう思いますか。	良い	良い ③→地元の人の方が伝わる。何でも昔の言葉で話せる。	良い ③→特にギャップも感じなく、(①も②も?)話しやすい。答えやすい。	地元の人がするのは良いが、方言抜きで。

	調査場所	仮設住宅	
	出身地・在外歴	出身地:宮城県気仙沼市	出身地:宮城県気仙沼市 在外歴:東京都
	性別	女	女
	世代	60代	60代
質問項目	1. あなたは、地元の方が好きですか。	好き	どちらでもない 好き・嫌いというものではない。
	2. 支援者から方言で話しかけられたことはありますか。	ある たぶん、自然に覚えて上手に話している。地域訪問の時は、ここの(気仙沼の)ことばで話しかけられる。(それに対して→)ことばが通じて良い。	ない 標準語。
	3. 方言を用いた復興スローガンに、(共通語のスローガンと比べて)親近感を感じますか。	感じる 方言の方が良い。	感じる 問いかけだけけど、どちらも同じくらいだが、優しさも含んでいる。お互い相手に同情する意味が含まれている。
	4. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)目立つと思いますか。	どちらでもない 同じに見える。	目立つ 全国(規模)で何かあったら標準語。岩手・宮城・福島だったので、目立つかどうかではなく、「ここが(私らが)被災した被災地(被災者)なんだな」と思う。
	5.①地元以外の方が方言を使用してスローガンを作ることについてどう思いますか。	どちらでもない 別に、出身がどこでも同じ感じ。(地元の人と)一緒に作っているのでは。	良い
	5.②地元の方が方言を使用してスローガンを作ることについてどう思いますか。	どちらでもない	良い ③→両者に違いなし。却って、優しさが含まれていて、思いやってくれたな、と思う。

別資料 D②・支援者の意識 (3.2.2)

調査場所	福祉センター					
出身地・在外歴	出身地:岩手県盛岡市 在外歴:宮城県仙台市、東京都	出身地:長野県東御市 在外歴:東京都新宿区、千葉県	出身地:長野県東御市	出身地:東京都		
性別	女	男	女	男		
世代	30代		50代	50代		
滞在期間	13日目/? ※4月末~5月にも1週間。	10日目/14日間	5日目/16日間			
質問項目	1. あなたは、被災地の方言が好きですか。	好き	好き	どちらかという好き	好き	
	2. あなたは、被災地の方とのコミュニケーションに被災地の方言を使うことがありますか。	ある イントネーション(なぜ使ったか:話しやすい。相手の影響も)	ない しゃべっていると「違う」と分かれてしまう。	ない うつるほどではない。(イントネーションはあるかも)	ない	方言を聞くことが少ない ごんぼだねを知った。
	3. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)被災者に親近感を感じてもらえると思いますか。	思う 親しみやすい。被災地の人から見ても良いのでは。「がんばろう気仙沼」Tシャツ「～っべ」の方が良い。	どちらかというと思う ※「地元の人が使用←他県から見ると親近感」という意味での回答か?「方言の選び方による」とも。	思う	思う	
	4. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)目立つと思いますか。	目立つ 印象に残る	目立つ	目立つ もう一度読もうと思う。共通語だと素通り。	目立つ	
	5.①被災地以外の人が方言を使ってスローガンを作った時、被災者の方は好感を持つと思いますか。	どちらかという嫌悪感を持つと思う (好感を持つとは)思わない。(※「嫌悪感を持つ」~「どちらかという嫌悪感を持つ」という回答)	好感を持つと思う ただし、スローガンの出来による。使い方を間違え、ニュアンスが違うとダメ。	どちらかという嫌悪感を持つと思う 同じ立場でない、ということ。(被災体験の有無?)	どちらかという好感を持つと思う	状況に応じて/目的に応じて/気持ちを考えて使える
	5.②被災地の方が方言を使ってスローガンを作った時、被災者の方は好感を持つと思いますか。	好感を持つと思う この人が使って自分で(言ってる分には?)良い。③→実際に使っている人、普段使う人が使うからその良さ[印象が残る]、そうでない人だとわざとらしい。	好感を持つと思う	どちらかという好感を持つと思う 「同じ目線=体験の共有・共感」(ということ②の方が好感を持つ)という人もいかな。	好感を持つと思う	
6. あなたが、被災者を激励するスローガンを作ったら、どのことばを使って作りますか。	共通語 この人間ではないので。(「あなたの出身地の方言は?」の問いに対して)盛岡には今住んでいないので。	被災地の方言 ただし、(被災地の方言を)理解している人が作る、(というのが必須条件)自分、長野から(長野にいる時に?)作るなら、「出身地の方言」で作る可能性も。	あなたの出身地の方言 ※励ましたい場合=自分中心に考えて、相手に「頑張って!」と言う場合。「がんばりやしょ」/「被災地の方言」の場合は、相手のために作る=相手の気持ちに添う	共通語	状況に応じて方言を使う/がんばっぺ気仙沼、日常的なものではないので、思いは伝わらない	

調査場所	福祉センター				
出身地・在外歴	出身地: 兵庫県	出身地: 兵庫県	出身地: 兵庫県	出身地: 福島県	
性別	女	女	女	男	
世代	50代	50代	50代	20代	
滞在期間	2日目/14日間	2日目/14日間	2日目/14日間	4日目/?	
質問項目	1. あなたは、被災地の方言が好きですか。	好き	好き	好き	どちらでもない 父親の実家が福島県であり、気仙沼の方言と似ているので普通に感じる。
	2. あなたは、被災地の方とのコミュニケーションに被災地の方言を使うことがありますか。	ない	ない 使ってみたいと思う	ない 自分がこちらの方言を使えるようになるとは思えない。	ない 使いたいとは思わない。ただ、方言は普通に出ると思う
	3. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)被災者に親近感を感じてもらえると思いますか。	思う	思う	思う 「がんばろう」というのは外からの目線で言っているような印象を受ける	思わない 「がんばろう」で十分だと思う。方言はやりすぎでは?
	4. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)目立つと思いますか。	目立たない 「～べ」や「～べし」のニュアンスが分からない。共通語の方が見慣れているから	目立つ	目立つ 被災者が「私たちの地域は頑張っている」ということを発信するのには良いと思う	目立たない 共通語の方が見慣れている
	5.①被災地以外の人が方言を使ってスローガンを作った時、被災者の方は好感を持つと思いますか。	嫌悪感を持つと思う	嫌悪感を持つと思う	嫌悪感を持つと思う	嫌悪感を持つと思う 方言を使うのはわざとらしく感じる
	5.②被災地の人が方言を使ってスローガンを作った時、被災者の方は好感を持つと思いますか。	好感を持つと思う 方言のニュアンスが分からないので、被災地の地元の方が方言を使った方が良い。それ以外の方が使うのはおこがましい	好感を持つと思う 被災地のの方が、方言のニュアンスが分かると思う。	好感を持つと思う 被災地の人が被災者に向かって「がんばっぺ」(一緒に頑張ろう)と呼びかけるのは分かるが、被災地以外の方がこのような言葉を使って話すのはおこがましいと思う	どちらかという好感を持つと思う
6. あなたが、被災者を激励するスローガンを作るとしたら、どのことばを使つて作りますか。	共通語	あなたの出身地の方言 (どの相手に対するスローガンかによるが)標準語でもきちんと言えるかどうか不安なので、使い慣れた自分の地元の言葉を使いたい	あなたの出身地の方言 自分がよく使っている言葉で激励することができればいいと思う。	共通語	

調査場所	ボランティアセンター			
出身地・在外歴	出身地:東京都文京区	出身地:長崎県佐世保市 在外歴:福岡県、海外	出身地:宮城県仙台市	
性別	女	女	男	
世代	40代	30代	20代	
滞在期間	2日目/2日間	14日目/21日間	2日目/2日間 ※以前は閉上、また名取に40日。(以下、名取での話を調査)	
質問項目	1. あなたは、被災地の方言が好きですか。	どちらでもない	好き	どちらかというと好き
	2. あなたは、被災地の方とのコミュニケーションに被災地の方言を使うことがありますか。	ない	ある 「がんばっぺ」「いっぺ」(かけ声)…(なぜ使ったか:現地のスタッフと話す時。相手に親しみを込めて)	ある なぜ→自分の言葉として
	3. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)被災者に親近感を感じてもらえますか。	どちらかと思う 暖かい感じ	思う 東北以外の場所で東北方言の「がんばっぺ」(が使われている)も良いが、土地柄で暖かみを感じる。	どちらかと思う 部落实り分らない。東北＝がんばっぺ、みたいな。普段から自分が使ってるから分らない。
	4. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)目立つと思いますか。	どちらかと思う ※「目立つ」～「どちらかと思う目立つ」の回答。/二度見する感じ。何だろう?と気になる。	どちらかと思う 目立たない どちらもがんばろうという気持ちは伝わる。意味の伝達は同じなので「変わらない」	目立つ どこの地方の言葉が興味
	5.①被災地以外の方が方言を使ってスローガンを作った時、被災者の方は好感を持ちますか。	どちらかと思う ※「好感を持つと思う」～「どちらかと思うと好感を持つと思う」の回答。/歩み寄りと思えるか、馴れ馴れしいと思えるか、どっちだろう?	どちらかと思う 好感を持つと思う	嫌悪感を持つと思う
	5.②被災地の方が方言を使ってスローガンを作った時、被災者の方は好感を持ちますか。	好感を持つと思う ③→②の方がインパクトが大きい。自然な流れ。大阪の人が違うと(他地域の人の話す「大阪弁」が自分の話す本当の大阪弁と違うと)イラツとするらしいが、同じかどうか?	好感を持つと思う 方言に対する使い方。バカにするのではなく、そのままの方言を出すなら良い。笑いにするのがなければ。メディアで見る「笑いを取るための方言」のイメージによる	好感を持つと思う 本人も普段から使っている言葉だから。①は意味分かってるのか?わざと茶化してる?(と、受けをとる人もいるのでは?)
6. あなたが、被災者を激励するスローガンを作るとしたら、どのことばを使って作りますか。	共通語 被災者にも分かってもらいたいし、それ以外の地域の人にも幅広く分かってもらいたいから。/(被災者へのメッセージ、と特化すると)「被災地の方言」と回答。	共通語 「被災地の方言」(ここに来て、ここで作る場合)/「共通語」(地元に戻って作るなら)	あなたの出身地の方言 自分のことば→どこの人からの激励分かるから。/(他の地域が被災した場合は?)その場合でも自分の出身地の方言。	

調査場所	ボランティアセンター			
出身地・在外歴	出身地:三重県	出身地:東京都	出身地:宮城県仙台	
性別	男	男	男	
世代	30代	30代	10代	
滞在期間		2日目/2日間	2ヶ月/?	
質問項目	1. あなたは、被災地の方言が好きですか。	どちらでもない 東北らしい	好き	好き
	2. あなたは、被災地の方とのコミュニケーションに被災地の方言を使うことがありますか。	ない	ない 2日しか滞在しなかったが、さらに滞在するしたら自然と方言が移ってしまうかもしれない	ない
	3. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)被災者に親近感を感じてもらえると思いますか。	思う	どちらでもない スローガンで「親近感」を表すこと自体は難しいのでは。	思う 自分も東北の人間なので、温かみを感じる。元気になれると思う。
	4. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)目立つと思いますか。	どちらかというが目立つ	目立たない 共通語の方が馴れている言葉だから。	目立つ
	5.①被災地以外の人が方言を使ってスローガンを作った時、被災者の方は好感を持つと思いますか。	どちらかという嫌悪感を持つと思う 借りて使うとうそくさい	嫌悪感を持つと思う 被災地以外の方が被災地の方言を使うと、「一緒ががんばろう」という意味でなく、他人ごとのように感じる。被災地の中と外を分けてしまいい、壁を作ってしまうのではないかな。	好感を持つと思う 別の地方の人が被災地の方言を使おうと努力することは、親近感を持てると思う
	5.②被災地の人が方言を使ってスローガンを作った時、被災者の方は好感を持つと思いますか。	好感を持つと思う	好感を持つと思う	好感を持つと思う
6. あなたが、被災者を激励するスローガンを作るとしたら、どのことばを使って作りますか。	あなたの出身地の方言 共通語が二番目	共通語	被災地の方言	

調査場所	ボランティアセンター			
出身地・在外歴	出身地:愛媛県 在外歴:北海道、大阪府、兵庫県	出身地:岡山県 在外歴:大阪府、兵庫	出身地:宮城県仙台市	
性別	男	男	男	
世代	70代	70代	60代	
滞在期間	2日目/?	2日目/?	2日目/2日間	
質問項目	1. あなたは、被災地の方言が好きですか。	好き	好き	好き
	2. あなたは、被災地の方とのコミュニケーションに被災地の方言を使うことがありますか。	ない	ない	ある 気仙沼も仙台も変わりはない
	3. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)被災者に親近感を感じてもらえると思いますか。	思わない	思わない	思う 地元言葉だから普通の言葉(共通語)よりも励まされる
	4. 方言を用いた復興スローガンは、(共通語のスローガンと比べて)目立つと思いますか。	目立つ	目立つ	目立つ
	5.①被災地以外の方が方言を使ってスローガンを作った時、被災者の方は好感を持つと思いますか。	嫌悪感を持つと思う 自分たちも関東の人に中途半端に関西弁を使われると嫌な感じがする。それと同じではないか。方言は真似するべきものではない	嫌悪感を持つと思う	どちらかというと好感を持つと思う
	5.②被災地の方が方言を使ってスローガンを作った時、被災者の方は好感を持つと思いますか。	好感を持つと思う	好感を持つと思う 方言は文化。地域の人は愛着を持っている。その地域の方が自分の地域の方言を使うのは当然。	どちらかというと好感を持つと思う ただ、皆が頑張っているのだから、今さら「がんばっぺ」と言っても仕方ない。明日に向かっていくしかない
6. あなたが、被災者を激励するスローガンを作るとしたら、どのことばを使って作りますか。	共通語	共通語 被災地の方言を詳しく知らないので、適切な方言を選べない	被災地の方言 普段「がんばっぺ」と使う言葉なので	